

平成27年度事業計画

I 自主事業

(自主事業予算総額 11,003千円)

1 地域養蚕継承対策事業 (予算額 5,098千円)

- (1) 蚕種・養蚕資材購入支援事業 (予算額 3,135千円)
繭生産のコスト低減と生産力向上を図るため、蚕種及び稚蚕人工飼料の購入に対して助成を行います。
- | | | | |
|----------------|----------|--------|--------|
| ○群馬オリジナル蚕品種等 | オリジナル蚕品種 | 1箱当たり | 1,100円 |
| | 普通蚕品種 | 1箱当たり | 1,100円 |
| ○稚蚕人工飼料「くわのはな」 | | 1kg当たり | 120円 |
- (2) 稚蚕共同飼育助成事業 (予算額 1,963千円)
稚蚕共同飼育所における1～3令飼育経費の一部を助成します。
- | | |
|-------------|--------|
| ○1箱(3万粒)当たり | 2,100円 |
|-------------|--------|
- (3) 稚蚕共同飼育所施設改善事業 (予算額 100千円)
地域の養蚕を支えている稚蚕共同飼育所について、蚕児の安定供給を図るため、その改善等に要する経費の一部を助成します。

2 稚蚕共同飼育所違作助成金交付事業 (予算額 100千円)

稚蚕共同飼育所において違作が発生した場合、その飼育経費の一部を助成します。

3 製糸業振興対策事業 (予算額 4,905千円)

- (1) 県産高品質繭生産奨励事業 (予算額 3,381千円)
養蚕農家の高品質繭生産を奨励するとともに、碓氷製糸農協業同組合が実施する高品位かつ特長ある生糸製造等に必要な事業経費の一部を助成します。
- (ア) 県産高品質繭生産奨励金交付 (予算額 2,161千円)
繭格6A(選除繭割合0.1%以下・解じょ率90%以上)に100円/kgを助成
- (イ) 高品質繭生産指導助成 (予算額 470千円)
高品質繭の生産現場における生産指導及び集荷経費の1/2を助成します。
- (ウ) 新製糸業対策助成 (予算額 750千円)
県産高品質繭からとれる良質な生糸の製造に必要な生産改善や施設改善等に要する経費の1/4を助成します。

(2) 繭品質評価協議会支援事業

(予算額 1,524千円)

群馬県繭品質評価協議会が実施する、繭品質評価に対して、その経費の一部を助成します。

(ア) 運営経費助成

(予算額 300千円)

(イ) 運営事業費助成

(予算額 1,224千円)

4 蚕糸絹業関係交流支援事業

(予算額 800千円)

○「群馬の絹」活性化研究会支援事業

養蚕農家、製糸業者、絹織物業者、染織作家が「群馬の絹」を使った新製品開発と広報宣伝、資質の向上のために組織する「群馬の絹」活性化研究会」の活動を支援します。

5 絹製品活性化推進事業

(予算額 100千円)

平成22、23年度に県から受託したオリジナル絹製品開発事業の実績を活用して、さらなる県産絹製品の需要拡大を促進し活性化を図る。

II 受託事業

1 ぐんま絹遺産解説業務

(受託事業総額 9,200千円)

ぐんま絹遺産の解説マニュアル等の作成及び現地解説指導、並びに富岡製糸場来場者へのぐんま絹遺産解説のための解説の普及等を行います。

III 「日本絹の里」運営事業

(事業予算総額 103,950千円)

群馬県の伝統ある蚕糸絹業の交流と蚕糸業振興の拠点である「群馬県立日本絹の里」について、県から管理・運営を指定管理者として受託し群馬県立日本絹の里の設置及び管理に関する条例、施行規則、基本協定、事業計画の関係法規等の遵守のもと効率的な維持管理及び企画運営を行います。

1 管理及び運営に関する事項

(1) 蚕糸絹業に関する企画展示に関する業務

開館当初からの経験を財産として、資料の借用等必要に応じて蚕糸絹業関係博物館等の協力を得て行います。

また、蚕糸絹業の歴史や技術に特化した展示のほか、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録に関する展示等、来館者の興味を引く企画の展覧会を開催することにより、県民の蚕糸絹業に対する理解を深めます。

常設展示の維持管理

蚕糸業の歴史、技術、絹製品、蚕の生態、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の紹介など蚕糸絹業についての幅広い内容の展示を行うとともに、新たな資料収集やレプリカ、模型等の製作に努め、常設展示として展示することが適当と思われる資料を入手した時には、必要に応じて協議のうえ積極的な公開を行います。

また、「触る」、「動かす」ことを目的とした動態展示品等のメンテナンスには十分気を配り、来館者へのサービス低下を招かないよう適切に行います。なお、常設展示には収蔵品をできるだけ活用します。

企画展・特別展等の蚕糸絹業に関する展覧会の企画と開催

企画展・特別展等の展覧会の開催が日本絹の里を魅力ある施設と位置づける最大の業務と考え、蚕糸絹業関係者の交流の拠点、情報の発信、養蚕・絹文化の継承という設置目的達成のための展示を行います。具体的には、蚕糸絹業の歴史、技術、製品開発等に関する展示とともに、生物としての蚕を考える展示や染織に関する作品展、シルクに関連した展示などにより、絹の魅力や絹を用いた人形など作品の素晴らしさを伝える内容を更に充実させた展示に努めます。また、世界文化遺産の「富岡製糸場と絹産業遺産群」を紹介する展示も行います。

展覧会の開催回数としては、企画展は年4回程度で、蚕糸絹業に特化した特色ある内容とします。そして特別展等は年3回前後で、蚕糸絹業の理解を促進する展示を主たる内容とします。

《企 画 展》

「京都一芸舞妓の衣装展」

群馬県は古くから繭や生糸、絹織物の産地として、地位を築いてきました。一方、古都・京都には、日本を代表する絹織物として名高い西陣織があり、「西の西陣、東の桐生」と言われるほど、高級絹織物の産地として発展してきた経緯があり、現在も日本伝統の着物文化が色濃く残っています。その京都の象徴として描かれる舞妓は、観光客をはじめ多くの人々に大変人気があります。

本展では、四季折々の時候にあわせた、普段ではなかなか見ることのできない、芸妓・舞妓の衣装を京都五花街の年中行事とともに、簪などの伝統工芸品や舞台衣装、映像などで京都に色濃く残る日本伝統の着物文化をご紹介します。

「花まゆ展～繭から生まれた花～」

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録に伴い、蚕糸業再生への気運が高まっている中、養蚕農家や繭生産量は年々減少傾向にあります。伝統ある日本の絹文化の大切さを次世代につなげていくために、カイコがつくる国産の繭や糸を使い

天然素材のもつ素晴らしさを十分にいかして、ひとつひとつ丹精を込めて制作された美しいまゆの花の芸術作品を紹介するとともに、繭、シルクのもつ様々な表現と魅力をより多くの方々に伝え、今後の蚕糸振興に役立てます。

「皇居のご養蚕展～未来の養蚕業に向かって～」

皇居のご養蚕は、明治4年に昭憲皇太后が復興されて以来、歴代の皇后さまに引き継がれて現在に至っています。日本の養蚕業が現在、担い手の高齢化や後継者不足とあってない厳しい状況に直面している状況下にあります。本企画展では、皇居のご養蚕の様子や日本の養蚕業の歴史を紹介するとともに最新の研究である光る繭・クモ糸の遺伝子を持つ蚕の糸等について展示し、未来に向かった新たな養蚕業の可能性について紹介します。

特に、群馬県は繭・生糸の一大生産地として歴史を積み重ね、豊かな絹文化を築いてきた地域であり、その群馬県が育成した蚕品種についての展示や解説等も行い、これからの養蚕の振興の原点となるような展示とします。

「ちりめん創作人形展」

小紋や友禅などに使われている「ちりめん（縮緬）」は、「しぼ」と呼ばれる布表面の凹凸によって絹の柔らかさに立体感を加えているのが特徴です。本展は、ちりめんなどの絹の古裂を使い、昔の日常生活をテーマにした人形を制作している作家・竹本京氏（高崎市在住）の作品を中心とした、当館で9回目の展示会です。ちりめん創作人形やちりめんを使ったお細工物などを展示し、絹の魅力を紹介します。

《特 別 展》

「いせさき銘仙の美力^{みりよく} THE MEISEN REVOLUTION」

伊勢崎銘仙は、大正から昭和初期にかけて全国で大変流行した絹織物で、豊富な種類の色・柄や手織りの風合いが特徴です。明治以降第2次世界大戦までの日本人の衣料に欠かすことのできない、多くの人々に愛用された織物でした。

今回の特別展では、伊勢崎銘仙の豊富な色や柄を活かした、ピンワークなどのモダンなコーディネートを中心に展示します。伝統ある群馬県の織物が持つ色柄と、コーディネーター達の斬新な感性によって生み出された、華やかなファッションの世界をご案内します。

夏休みこども展「カイコのふしぎ」

カイコの卵、幼虫、吐糸、蛹、成虫、休眠性、遺伝、餌となる桑、飼育法などを取り上げ、カイコについて総合的に紹介しながら、こども達が不思議に思うことにスポットを当てて易しく解説します。

「まゆクラフトと絹の作品展」

繭の丸みや表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、まゆクラフトの技術向上を目指すとともに、その魅力を紹介します。また、伝統技法等により染織などの作品を創作している工芸作家や日本絹の里友の会会員の絹を用いた染色工芸品、織物、人形、刺繍、蚕糸に関連する写真などバラエティーに富んだ作品を展示し、より多くの方々に天然素材である絹の素晴らしさを感じていただきます。

《共催事業》

「群馬の絹」展

群馬の繭、生糸を使用した、和装品や洋装品、工芸品などの絹製品の展示と販売を行い、県民をはじめ、県内外の関係者、消費者に対して「群馬の絹」を宣伝し、需要拡大に結びつけます。

(2) 蚕糸絹業に関する情報提供に関する業務

- ア 蚕糸絹業に関する情報収集と提供
- イ 来館者、県民等による蚕糸絹業に関する相談、質問対応

(3) 管理物件の維持管理に関する業務

- ア 日本絹の里の施設及び附属施設の維持管理に関する業務
- イ 県民等からの資料寄贈に関する対応及び資料収集
- ウ 収蔵品及び収蔵図書との管理と貸し出し及び活用

(4) 体験室の運営に関する業務

- ア 各種体験学習の開催と指導にあたっての基本的な考え方
各体験学習は、絹を使い触れることで絹の素晴らしさを知ること、ものづくりの心を育むことを目指して実施します。体験内容については、企画部門と講師が相談しながら計画し、直接の指導は、繭クラフトは券売部門で担当し、染色、織り、和布細工は嘱託職員や専任講師が分野別に行い、初心者でも解りやすく絹に興味を持っていただき、ものづくりの楽しさを味わえる内容とします。

イ 体験内容

○ 染色体験

初心者を対象とした内容を中心に、草木染、型染、絞り染、ろうけつ染を基本として実施します。さらに、染色体験をより発展させるために、「草木染研究会」を引き続き開催します。なお、昨年度と染料や型紙・テーマなどを変えて、体験内容を分かり易く明示するなど工夫し参加者を募集します。

○ 織り体験

簡易手織り機によるコースター、ランチョンマット、マフラー、4枚綜紵など、初心者から順次段階を踏んで、変化織など応用までを体験することができます。

○ 繭クラフト体験

○ 和布のお細工物体験

○ 繭から織物までの体験セミナー

○ 夏休みこどもシルク教室

○ その他体験

蚕の飼い方や技術を学びたいという希望が多いことから、新たに「カイコの飼育体験学習講座」を開催します。

(5) 施設の利用に関する業務

ア 施設及び附属設備の利用の承認に関する業務

イ 有料施設等の利用の承認取り消し等に関する業務

ウ 日本絹の里への入館の拒否に関する業務

(6) その他

ア 広報宣伝活動

企画展等の開催や関連行事に関わる広報活動は、「日本絹の里便り」等で行うほか、ポスター、チラシを作製し、博物館等の関連施設へ配布します。県広報課を通じて行う各種媒体による広報活動のほか、周辺市町村の自治会の回覧や、イベント広報誌等、地元テレビ・ラジオ等を利用したPRも積極的に行い、独自の新聞広告も行います。

イ 「富岡製糸場と絹産業遺産群」のPR活動

ウ 小学校等に対する出前講座

エ 蚕糸絹業に関する講演会等の開催

オ 絹文化を通じての国際交流

カ 自主事業について

キ その他

2 利用に関する事項

(1) サービス向上のための取り組み

日本絹の里は、多数の利用者を対象とするサービス業です。職員一人ひとりが、日本絹の里の「顔」であり、その接客態度の善し悪しが日本絹の里の評価につながるということを認識し、責任ある姿勢で業務を行うことを徹底します。そのため、接遇の基本である1) 挨拶、2) 表情、3) 態度、4) 言葉遣いについて、OJT、OFFJTを適切に実施します。

ア 来館者に対する展示館の展示解説

イ 日本絹の里施設の案内

(2) 利用者確保するための取組み

- ア 多くの来館者を確保するため、地元の新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等でのPR活動を行います。
- イ 企画展等のポスター、チラシの発送や近隣の市町村へチラシの回覧を依頼します。
- ウ 県内社会福祉施設等の入所者等の観覧や、宿泊施設等へのアプローチにより県内外観光客の入館者増を図ります。
- エ リピーター確保のために、引き続きポイントカード制を実施します。
- オ シルクショップにおいて、年中行事関連や季節の商品、企画・特別展関連商品の取り扱い、及び染色素材等の充実にも努めるとともに、販売商品の品揃えの充実を図るため、新規取引業者の開拓、市場調査を実施しながら、ニーズに応じた商品陳列を行います。
- カ 県内小学校において、遠足や社会科見学とともに理科等の学習の場として、当館を活用していただくよう依頼し、学校との連携を図ります。
- キ 高崎北部三館連携協議会（会員：群馬県立土屋文明記念文学館、かみつけの里博物館、群馬県立日本絹の里）の会員として、会員相互の連携を図りながら、広報活動や各種イベント等を行い、入館者増に努めます。
- ク 特別展等の関連行事等において従来の体験の他、新規の体験等を開催し、新規の入館者やリピーターの確保等に努めます。
- ケ 夏休みこども展の関連事業として開催する「カイコの飼育体験」を通して、カイコや生糸の詳しい特徴やより良い飼育方法の学習を行うほか、生糸をつくる喜びを感じてもらうとともに、カイコに係わる人々の思いや願いを理解することなど、情操教育と蚕糸絹業の知識の醸成に取り組みます。

(3) 利用者の要望の把握及び苦情等への対応

- ア 利用者等の要望の把握
- イ 利用者の苦情等トラブルの未然防止と対応策

3 その他事項

(1) 蚕糸絹業関係者の交流支援

当協会は、蚕糸絹業関係者の組織する団体の事務局業務を担っており、日本絹の里の管理運営の一環として、関係者の交流の場とするとともに様々な活動支援を行います。

(2) 日本絹の里ボランティア及び日本絹の里友の会の活用・活動支援

ア 日本絹の里友の会の活動支援

日本絹の里友の会は、会員自らの生涯学習と日本絹の里の活動協力を通して蚕糸

絹業の維持発展に寄与する目的で、日本絹の里の開館と同時に設立されました。現在会員数は、325名を数え、染色などの各種講習会、蚕糸・絹業関係施設の視察見学、まゆクラフトと絹の作品展（日本絹の里と共催）、機関誌の発行等の活動を展開しています。

イ ボランティアの活用・活動支援

日本絹の里では、体験学習の支援及び展示物の案内や解説、染料植物の栽培等を行うボランティアの活動が行われています。部門は、体験学習（染め、織り、繭クラフト）、環境整備、展示解説、出前講座で、登録者数は現在約55名です。ボランティアには各部門での活動を通じて、日本絹の里の運営に協力いただいています。

(3) その他

- ア 報道関係者による取材等への対応
- イ 後援活動
- ウ 群馬県博物館連絡協議会に関する対応

Ⅳ「シルクショップ」運営事業

(事業予算総額 15,301千円)

引き続きシルクショップを運営し、魅力溢れる絹製品のPRと販売に努め、普及促進、需要拡大及び蚕糸絹業の振興に寄与していきます。

県内の製造業者や卸業者・織物組合等が扱う絹製品を中心に、「ぐんまシルク」、「純国産絹」認定品など、高品質な県産絹製品を多数取り扱うほか、魅力的な施設運営や蚕糸絹業の推進に寄与する製品・業者の開拓、「gシルク」ロゴマーク等を活用したブランド力向上にも努めます。

また、姉妹提携している一般財団法人西陣織物館との連携のもと相互に販売コーナー設置するなど、日本の絹製品を広く国内外へPRし、その普及を図ります。